

祝辞

近畿病院図書室協議会 設立15周年を祝って

日本医学図書館協会

理事 福留武士

(大阪大学医学情報課長)

このたび、近畿病院図書室協議会が記念すべき設立15周年を迎えられましたことは、まことに意義深いこととお慶び申し上げます。貴協議会がわが国の医学図書館界における病院図書館の先駆的な存在として、病院図書室間の相互協力を基盤とした組織づくりに成功され、貴重な貢献をされてきたことをよく承知しております。この輝かしい15周年の年輪を築いてこられた関係者の方々の先見性とご努力に心より敬意を表します。

ご承知のとおり、平成元年七月、学術審議会は「学術情報システムの整備に関する当面の課題」の中間報告をおこないました。このなかで電子的図書館システムの開発・導入準備や外国雑誌センターの見直し、モデルセンターの創設などの将来展望、さらに緊急に対処すべき課題として、ネットワークの整備・充実など学術情報流通の拡大施策について提言しております。このことは医学系図書館にとってもまったく同感です。高度な医療技術・研究に対応できる病院図書室への支援サービス体制の整備も、やはり急ぎ対処すべき課題でありましょう。医学・医療が物凄い進展をみせる時代の要請として、数だけでなく高質な情報を的確・迅速に提供できるサービス体制の確立がなければなりません。医療情報ネットワーク形成についても、病院図書室の規模の大小、機能、病院の組織・機構や経営体制そのほか、それぞれの条件のなかで現実的な対応が期待されています。

すでに国立大学図書館間においては学術情報センターシステムによるサービスが、電子メール・情報検索・雑誌目録システム・高画質の高速ファクシミリGⅣ機の導入で現実のものとなっています。また、いわゆる文献複写料金の後納制が実施されるなど大学図書館間等のサービスが改善されつつあり、ILLサービスも近く開始されようとしています。

このようなとき、一般的にみて大多数の病院図書室と支援図書館である大学医学図書館のこの不確かさの関係はまったく理解できません。その意味で貴協議会が今日まで果たしてこられた役割こそが、15年間の大きな足跡として一層映えてみえます。願わくば医学図書館ネットワーク形成にむけ、これを緊急の課題として認識し、ともにさらなる努力をしていきたいものです。

日本医学図書館協会におきましても、医学における高質な教育・研究および実践医療を促進するための情報サービスについて、全国的な医療図書館ネットワークの体制づくりをめざしてさまざまな努力をつづけております。なかでも病院図書室とのネットワーク形成に関しては、協会の重点的施策として積極的に推進したいと考えております。今後、病院図書室の質的向上等に貴協議会が果たされる役割がますます大なるものがあり、日本医学図書館協会の期待も非常に大きいものがあります。どうか今後とも貴協議会が一層のご発展を遂げられるよう祈念しまして、祝辞といたします。